1 調査の目的

1.1 調査実施の背景

観光や地域間交流の振興等による四国の活性化を図るためには、地域企業や地域住民と行政が協働し、既存ストックの有効活用を図りつつ、美しい自然環境の維持・創出、良好な景観の形成等の取り組みを四国全体で一体となって推進していくことが必要である。

特に、伝統的なお遍路文化は四国圏独自の歴史・文化であり、遍路道を軸とする広域的な文化的景観形成と計画的保全が四国圏共通の重要な課題として認識されている。お遍路道周辺の景観等の維持や保全においては、これまで、お遍路文化に根ざした「お接待」、「普請」という地域固有の文化が大きな役割を果たしてきた。

現在もその精神は引き継がれ各地で様々な活動が実施されているが、その取り組みは個々が実施するスポット的な活動に止まっており、広域的な活動を推進する仕組みを有していないことが、四国全体で効率的・効果的な地域づくりが展開されない一つの要因となっている。四国圏の発展のためには、それぞれの活動を繋げた広域的活動を展開することが強く要望されている。

文化的景観の形成と計画的な保全を推進する現場では、景観形成の方針についての関係者合意や推進体制の確立（人材育成、活動資金制等）に係る多くの課題を抱えており、現実的な解決策が求められている。また、住民や民間企業は、広域的なつながりを持った活動には関心があるものの、具体的な関わり方、進め方がわからない状態である。

1.2 調査実施の目的

四国圏に根ざした「お接待」、「普請」と呼ばれる地域文化は、これまで、お遍路道周辺の景観等の維持や保全において大きな役割を果たしてきた。また、これらの地域の活動は、お遍路道のみならず、四国におけるまちやむらの美しい景観保全の基盤としても重要な役割を果たしてきた。

このような伝統的な官民連携の活動をさらに進め、主体的に地域づくりに関わる意欲を持った人材を育成するとともに、美しい自然や歴史・文化等の地域の資源を再発見し、その魅力に磨きをかけて価値を高め、それを最大限に活用していこうとするものである。

本調査では、お遍路道を軸とする周辺地域における具体の景観づくりをモデル事例として推進することにより、「お接待」、「普請」という四国圏固有の地域文化を保全し、活用するための、多様な主体が参加する実践的な「取組指針」を整備する。これにより、四国八十八箇所霊場の遍路道周辺の地域の観光資源としての魅力の向上や地域づくりの支援を図るものである。

1.3 調査の流れ

お遍路及びモデル地域の現状調査

（1）交流人口の経年調査

（2）景観上の問題点の把握
- 広域的な文化的景観の形成と保全に関する現状把握
- 観光地域交流から見た文化的景観の形成と保全に関する状況把握
- 都市・中山間地域交流から見た文化的景観の形成と保全に関する現状把握

（3）課題の整理

↓

連携・協働による広域的な景観形成・保全の課題整理及び取組指針（案）の策定

（1）風景づくりの仕組みづくりにおける課題の類型化

（2）多様な主体の役割分担と課題についての検討
- 広域的な文化的景観の形成と保全に関する課題
- 観光地域交流から見た文化的景観の形成と保全に関する課題
- 都市・中山間地域交流から見た文化的景観の形成と保全に関する課題

（3）取組指針（案）の策定

↔ **地域との意見交換**
- モデル地域や先進地域との意見交換を実施

↓

取組指針（案）に基づくフォローアップの実施

（1）フォローアップ計画の作成

（2）ケーススタディの実施
- モデル地域におけるフォローアップ実施
- 取組指針に基づく人材育成・活動プロセス等の評価・支援

（3）普及浸透策の検討
- 自治体や地域団体等への浸透に向けた取組み
- 広域的な景観形成に向けた情報発信

↔ **地域検討会**
- 取組指針に基づくフォローアップのケーススタディの実施

↔ **風景づくり交流会**
- 取組指針及びフォローアップの浸透

↓

本調査の結果と期待される効果

（1）本調査の結果

（2）期待される効果